

照
明
灯

佐賀県立博物館
(佐賀市)に、高
さ10メートルを超すアラ

カシの木がある。「縄文アラカシ」と呼ばれ、約4千年前の縄文時代の遺跡から出土したドングリが発芽して育った。食用として土中に貯蔵していたとみられ、たくましい生命力に驚かされた▼平塚の社会福祉法人進和学園では、利用者がドングリをはじめとする木の実を集め、苗木に育てて出荷している。企業や団体の協力を得て、スタートした7年前からの累計出荷数は10万本を突破。障害者の貴重な就労の場となっている▼指導しているのは、国際生態学センター長で横浜国

立大名誉教授の宮脇昭さん(85)。「本物は厳しさに耐えて長持ちする」「自然の森はいろいろな種類が混ざり合っている。仲の良いものだけを集めても駄目」。宮脇さんが実践する独自の「密植・混植方式」は、人間社会にも通じるものがある▼先月には利用者も参加して、2年間手塩にかけた広葉樹の苗木680本を福島県南相馬市の植樹イベントで植えた。苗木は東北産のドングリを譲り受けて育てたもので、東日本大震災のがれきを使用した河口の「森の防潮堤」づくりに活用された▼11月はドングリ拾いの最盛期だ。落ち葉を踏みしめながら、新たな生命を育てるための活動が繰り返される。